

商業（財務会計Ⅱ）

履 修 単 位	4 単位	学 年	3 年
学 科 コ ー ス	商業科 ・（簿記会計コース）	区 分	必修 ・ 選択
使 用 教 科 書	財務会計Ⅱ（とうほう）		
副 教 材 等	財務会計Ⅱ 準拠 財務会計Ⅱ問題集 日商簿記2級問題集		

1. 科目を通した学習内容と学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 授業を受けるにあたってのアドバイス

簿記会計分野における最上位にあたる学習となります。グローバルな視点で多種多様な会計処理を正確かつ適正に処理できるとともに、財務諸表をはじめとする各種書類から企業の経営状況や課題・改善策などを発表やレポート作成を通してその能力を養っていきます。 また、各種会計法律についての意義やその役割について学習をするため、簿記会計の必要性や重要性など1年生から学んできたことが活かされる科目です。 授業では、何故そうなのか？どんな根拠があるのか？常に学びの姿勢を持って欲しいとともに、将来、会計人としてデータから企業分析までができること目指し、レポート作成や発表などしますので、向上心を持って授業を受けて下さい。

3. 科目を通した評価の観点と評価方法

観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営判断を分析する力を養う。	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評 価 方 法	・ 定期考査 ・ 単元テスト ・ 練習問題集 ・ ワークシート	・ 定期考査 ・ 単元テスト ・ レポート ・ ワークシート ・ 練習問題集	・ 授業の参加状況（発表） ・ 授業態度（取組状況） ・ レポート
上に示す観点に基づいて、学習のまとまり（単元）ごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4. 年間を通した学習計画

(より詳細な「学習内容・ねらい」・「評価の観点・評価方法」等については、各単元の最初の授業等で説明します。)

知識・技能＝【知技】 思考・判断・表現＝【思判表】 主体的に学習に取り組む態度＝【態度】

学期	単元の学習内容	単元の学習目標（ねらい）	単元の評価規準	主な評価の観点			備考
				知技	思判表	態度	
	第1編 総論－財務会計の基本概念と会計基準－						
	第1章 財務会計の基本概念	・財務報告の意味とその目的について理解させる。 ・財務報告における情報の特性，すなわち意思決定有用性について理解させる。 ・財務諸表の構成要素の意味および構成要素の個々の定義について説明する。 ・財務諸表の構成要素の認識と測定について理解させる。	・財務会計の基本概念を理解したか。	○			
			・財務諸表の構成要素の定義がなぜ必要であるのか，その理由を考えたか。		○		
			・財務諸表の構成要素など財務会計の基本概念の学習に興味を示し，自ら進んで学習しようとする態度が見られたか。			○	
	第2章 資産負債アプローチと収益費用アプローチ	・財務諸表の構成要素の定義に対するアプローチには，資産負債アプローチと収益費用アプローチの二つがあることを紹介する。 ・資産負債アプローチの概要を理解させる。 ・収益費用アプローチの概要を理解させる。 ・上記の二つのアプローチの違いが利益計算の違い（包括利益と純利益）となって表れてくることにも触れる。	・二つのアプローチ（資産負債アプローチと収益費用アプローチ）の概要を理解したか。	○			
			・二つのアプローチと二つの利益（純利益と包括利益）との関係を理解したか。	○			
			・資産負債アプローチと収益費用アプローチの考え方の違いを整理し，それを的確に表現できたか。		○		
			・資産負債アプローチと収益費用アプローチの特徴を理解しようと努力したか。			○	
			・包括利益と純利益の意味について関心を持ち，意欲的に取り組んだか。			○	
	第3章 会計基準の国際的統合	・わが国の会計基準の特徴を整理して，会計基準の国際的統合の流れを理解させる。	・会計基準の国際的統合の流れと，わが国の対応を理解したか。	○			
			・近年の会計基準の国際的統合の状況，特にIASB（国際会計基準審議会）が逐次公表するIFRS（国際財務報告基準）の動向などを検索し，分かりやすくまとめることができたか。	○			
			・会計基準の国際的統合の流れが，なぜ起きたかを考え，また，わが国の対応は，どのようになっているのかを的確に判断し，それらを分かりやすくまとめて表現できたか。	○			
			・会計基準の国際的統合の現状に高い関心を持ったか。		○		
	第2編 各論（1）－財務会計の実際－						
	第4章 資産会計	・資産の評価基準である原価基準と時価基準について整理し，公正価値の意味を理解させる。 ・割引現在価値について，その計算技法を例題を通じて習熟させる。 ・金融資産（有価証券・金銭債権・デリバティブ取引）の評価方法について理解させる。 ・棚卸資産の評価方法について理	・資産の評価基準や評価方法について理解したか。			○	
			・現在価値の計算や利息法による償却原価の計算，記帳法などに習熟したか。	○			
			・資産の評価についての基礎理論を考え，各種資産の評価に当たり，適切な判断ができたか。	○			

第 一 学 期		解させる。 ・有形固定資産の評価方法について理解させ、総合償却、圧縮記帳にも触れる。 ・無形固定資産の評価方法について理解させる。 ・減損処理の意味を明らかにし、金融資産、棚卸資産、固定資産における減損の会計処理について理解させる。	・資産の評価基準や評価方法の理解に高い関心を持ち、特に減損の会計処理の学習を積極的に進めようとしたか。		○		
	第5章 負債会計	・負債の意味を明らかにし、金融負債の評価方法について理解させる。 ・主な引当金を挙げて、その概要と処理方法を理解させる。 ・社債の期末評価と償還の処理について理解させる。 ・退職給付引当金の意味を明らかにし、退職給付引当金に関する一連の会計処理を理解させる。 ・資産除去債務の意味と一連の会計処理について理解させる。	・負債の意味と評価、社債や退職給付引当金、資産除去債務に関する計算および記帳法を理解したか。			○	
			・社債や退職給付引当金、資産除去債務に関する計算および記帳法に習熟したか。		○		
			・負債の評価についての基礎理論を考え、社債や退職給付引当金、資産除去債務などの評価に当たり、適切な判断ができたか。			○	
			・負債の意味と評価の理解に高い関心を持ち、社債や退職給付引当金、資産除去債務に関する計算や記帳法の学習を積極的に進めようとしたか。	○			
	第6章 純資産会計	・純資産の意味と分類を整理する。 ・新株予約権の意味と一連の会計処理について理解させる。 ・分配可能額の計算を例題を通して習熟させる。 ・株主資本等変動計算書を作成する目的およびその作成方法を理解させる。	・純資産の意味と分類について、今日的な意味を理解し、新株予約権などの会計処理を理解できたか。		○		
			・新株予約権の記帳法や分配可能額の計算方法などを習得したか。			○	
			・純資産の意味と分類について、今日的な意味を考え、新株予約権などの会計処理を適切に判断して行うことができたか。	○			
			・純資産の意味と分類の理解に高い関心を持ち、新株予約権の記帳や分配可能額の計算などの学習を積極的に進めようとしたか。	○			
	第7章 損益会計	・収益の認識について、会計基準と基本的な考え方を紹介する。 ・「収益認識に関する会計基準」のもとでは、収益の認識は5つのステップを踏むことで行われることを理解させる。 ・それぞれの商品販売の形態とその会計処理について、例題を通して理解させる。 ・工事契約について、その考え方と処理方法を理解させる。	・収益の認識について、会計基準が公表されるに至った経緯と背景について理解したか。		○		
			・それぞれの商品販売の形態および工事契約とその会計処理を理解したか。			○	
			・それぞれの商品販売の形態および工事契約について、例題を通して5つのステップを理解し、適切な判断ができたか。		○		
			・会計基準にもとづいた収益の認識の理解に高い関心を持ち、それぞれの商品販売の形態および工事契約の会計処理などの学習を積極的に進めようとしたか。			○	
	第8章 リース会計	・リース取引の意味と分類を紹介する。 ・ファイナンス・リース取引の借手の会計処理について習熟させる。 ・オペレーティング・リース取引の会計処理について習熟させる。 ・ファイナンス・リース取引の貸手の会計処理について習熟させる。	・ファイナンス・リースとオペレーティング・リースそれぞれの取引の特徴を理解し、その取引に合った会計処理方法を理解できたか。	○			
			・ファイナンス・リースおよびオペレーティング・リースそれぞれの取引の会計処理方法に習熟したか。	○			
			・ファイナンス・リースとオペレーティング・リースそれぞれの取引の特徴を考え、その取引に合わせて適切な処理方法を判断できたか。		○		

第二学期			・リース取引に高い関心を持ち、ファイナンス・リースおよびオペレーティング・リースの会計処理の学習を進んで行ったか。			○	
	第9章 税効果会計	・利益，課税所得，益金，損金など法人税の計算の概略を説明する。 ・税効果会計の意味を例題を用いて理解させる。 ・一時差異と繰延税金資産・繰延税金負債について理解させる。	・税効果会計の目的を理解し，その記帳法や損益計算書の表示方法を理解したか。	○			
			・法人税等調整額の計算と仕訳，損益計算書における表示方法を習得したか。	○			
			・なぜ，税効果会計を行うのか，その理由を考えて処理方法を判断し，仕訳の形に表現できたか。	○			
			・税効果会計の仕組みの理解に高い関心を持ち，その学習を積極的に進めたか。	○			
	第3編 各論（2）－企業活動の展開と財務会計－						
	第10章 外貨換算会計	・外貨建取引の意義，為替換算と為替差損益について理解させる。 ・外貨建取引の基本的な会計処理に習熟させる。 ・外貨建項目の決算時の会計処理について理解させる。	・外貨建取引の意味，基本的な会計処理および外貨建項目の決算時の会計処理を理解したか。	○			
			・外貨建取引の発生日・決済日・決算日の記帳法に習熟したか。		○		
			・外貨換算会計についての基礎理論を考え，外貨建取引発生日・決済日・決算日の会計処理について適切な判断ができたか。		○		
			・外貨換算会計の内容に高い関心を持ち，その記帳法の学習を積極的に進めようとしたか。			○	
	第11章 キャッシュ・フロー計算書	・キャッシュ・フロー計算書の意義と必要性について理解させる。 ・キャッシュ・フロー計算書の表示区分および表示方法について理解させる。 ・直接法および間接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成手続きを説明し，例題に取り組ませる。	・キャッシュ・フロー計算書の意義と必要性を理解したか。	○			
			・キャッシュ・フロー計算書の作成法である直接法と間接法の違いを理解できたか。		○		
			・直接法および間接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成法を習得したか。	○			
			・キャッシュ・フロー計算書についての基礎理論を考え，その作成に当たり，表示区分や表示方法などに関して適切な判断ができたか。		○		
			・キャッシュ・フロー計算書に高い関心を示し，その作成法の学習を積極的に進めようとしたか。			○	
	第4編 各論（3）－企業結合の会計－						
	第12章 企業結合会計	・企業結合会計の意味を理解させる。 ・合併会計，とくに吸収合併の会計処理について例題を用いて理解させる。	・企業結合会計，特に吸収合併における会計処理を理解したか。		○		
			・吸収合併における会計処理を習得したか。			○	
			・企業結合会計についての基礎理論を考え，合併の会計処理について適切な判断ができたか。	○			
			・企業結合会計の意味および合併会計の理解に関心を高め，その学習を積極的に進めようとしたか。	○			
	第13章 連結財務諸表の作成（その1）	・連結財務諸表を作成する目的と，連結の範囲について理解させる。 ・支配の獲得の意味と支配獲得日の処理について例題を用いて理解させる。 ・支配獲得日における連結貸借対照表の作成手続きについて理解させる	・連結財務諸表を作成する目的と連結の範囲について，その内容を理解したか。	○			
			・支配獲得日における連結貸借対照表の作成方法と，投資と資本の相殺消去について，その内容を理解し，習得したか。		○		

		・投資と資本の相殺消去の手続きについて理解させる。 ・支配獲得日後における連結財務諸表の作成手続き（開始仕訳および当期分の連結仕訳）について理解させる。 ・連結財務諸表の表示方法について理解させる。	・支配獲得日後における連結財務諸表の作成手続き（開始仕訳および当期分の連結仕訳）について、その内容を理解し、習得したか。					
			・連結財務諸表の作成方法に関して、自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断できるようになったか。					
			・連結財務諸表の作成方法に関心を高め、その学習を積極的に進めようとしているか。					
	第14章 連結財務諸表の作成（その2）	・持分の変動には、支配獲得までの段階取得・支配獲得後の追加取得・子会社株式の一部売却があることを説明する。 ・子会社株式の支配獲得までの段階取得と支配獲得後の子会社株式の取得の処理について例題を用いて習熟させる。 ・子会社株式の一部売却の処理について例題を用いて習熟させる。 ・連結財務諸表の作成方法について、例題を用いながら確認する。 ・連結キャッシュ・フロー計算書の作成方法および表示方法について、その概要を紹介する。	・持分に変動があった場合の会計処理を理解したか。 ・持分に変動があった場合の会計処理を習得したか。 ・持分の変動の意味を考え、その会計処理に当たり、適切な判断ができたか。 ・支配獲得後における子会社株式の取得や、一部売却など持分の変動があった場合の処理について、関心を高め、その理解を積極的に進めようとしたか。					
	第15章 持分法	・持分法の意義とその適用対象について説明する。 ・持分法の基本的な会計処理を整理し、投資差額の償却・当期純利益の計上・配当金の修正について例題を用いて習熟させる。	・持分法における基本的な会計処理、投資差額の償却、当期純利益の計上、配当金の修正などを理解したか。 ・持分法における基本的な会計処理、投資差額の償却、当期純利益の計上、配当金の修正などを習得したか。 ・持分法の意味を考え、その会計処理に当たり、適切な判断ができたか。 ・持分法の意義や会計処理の理解に関心を高め、その学習を積極的に進めようとしたか。					
	第16章 連結税効果会計	・連結税効果会計の意義を説明する。 ・連結税効果会計を適用した場合の会計処理について、例題を通して理解させる。	・連結税効果会計における基本的な会計処理を習得したか。 ・連結税効果会計の意味を考え、その会計処理に当たり、適切な判断ができたか。 ・連結税効果会計の意義や会計処理の理解に関心を高め、その学習を積極的に進めようとしたか。					
	第4編 財務諸表の活用							
	第17章 財務諸表の活用	・有価証券報告書を基礎とした企業グループの現状把握のアウトラインを紹介する。 ・株主価値や株価指標など株価の判断材料について理解させる。 ・企業価値評価の概要を説明する。	・有価証券報告書などから企業グループの現状を把握する流れを理解したか。 ・株価の判断材料に関する基礎理論を理解できたか。 ・フリー・キャッシュ・フローと現在価値、さらに企業価値の計算方法を理解できたか。 ・有価証券報告書などから企業グループの現状を把握する技術を身につけたか。 ・株価の判断材料に関する基礎理論を習得できたか。 ・企業価値の計算に習熟したか。 ・有価証券報告書などから企業グループの現状を考え、適切な判断ができたか。 ・株価について判断するときの材料について考え、適切な判断ができたか。 ・今日、企業価値が注目される理由を考え、企業を適切に評価できたか。					

第三学期			・企業グループの現状を把握するためには、どのようにすればよいかに高い関心を持ち、インターネットなどにより、その学習を積極的に進めようとしたか。			○	
			・株価に関する判断材料について、高い関心を持ち、その理解を積極的に進めようとしたか。			○	
			・企業評価尺度としての企業価値に関心を高め、その学習を積極的に進めようとしたか。			○	
	第5編 監査と職業会計人						
	第18章 監査と職業会計人	・会社法および金融商品取引法に基づく監査のしくみを紹介する。 ・財務諸表監査の目的とリスクアプローチについて説明する。 ・監査のプロセスと監査手続き、監査意見と監査報告書について整理する。 ・監査の品質管理、職業会計人の社会的役割と倫理について説明する。	・会社法および金融商品取引法に基づく監査についての知識を身につけ、それぞれの特徴を理解している。	○			
			・財務諸表監査の目的とリスク・アプローチの必要性について理解できている。		○		
			・監査のプロセスと監査手続きの概要を理解している。		○		
			・監査の品質管理の意味、職業会計人の社会的役割と倫理について具体的に理解できている。		○		
			・会社法および金融商品取引法に基づく監査について、それぞれの監査の流れに習熟している。			○	
			・財務諸表監査の目的とリスク・アプローチについて、それぞれの重要ポイントを習得している。			○	
			・監査のプロセスと監査手続について、それぞれの実務の様子を習得できている。			○	
			・監査の品質管理、職業会計人の社会的役割と倫理について、それぞれのポイントを習得した。	○			
			・二つの法律とそれぞれの監査の異同について考えようとしている。	○			
			・財務諸表監査の目的について考え、さらにリスク・アプローチが、なぜ採用されるのかを考え、理由を適切に表現できる。		○		
			・監査のプロセスと監査手続において、それぞれの重要ポイントを押さえている。		○		
			・監査の品質管理について考え、さらに職業会計人の社会的役割と倫理について適切に表現できる。		○		
			・会社法および金融商品取引法に基づく監査について高い関心を持ち、積極的に学習を進めようとしている。			○	
			・財務諸表監査の目的とリスク・アプローチについて高い関心を持ち、自ら進んで学習する意欲が見られる。			○	
			・監査のプロセスと監査手続などに強い関心を持ち、その学習を積極的に進めようとしている。			○	
			・監査の品質管理、職業会計人の社会的役割と倫理について高い関心をもち、自ら進んで学習する意欲が見られる。			○	